



### 『自然・人・文化を活かした体験塾事業』

七曲がりを歩いたウォークラリー  
(下後三条町自治会)

## 約200自治会が 新しい試みに挑戦

自然・人・文化を  
活かした体験塾事業

【町教育委員会が平成14年度から実施している「自然・人・文化を活かした体験塾事業」は、地域の中で子どもたちがいろいろな役割を果たすことで、子どもたちに、かけがえのない体験をする機会を与えようとするものです。

ひこね21世紀創造プラン  
市民がつくる  
安心と躍動のまち  
彦根

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はぐく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

## 特集

# 地域に根ざした活動で養う 子どもたちの「生きる力」

昨年4月から完全学校週5日制が実施されて、もつすぐ1年になりました。週に2日が休日になって、生まれる「ゆとり」。その中で、子どもたちは、家庭や地域を舞台に親子の触れ合いや友達との遊び、地域の人々との交流などを体験しています。感動したり、驚いたりして、さまざまなことを学び、成長していくのです。

## 子どもたちと 地域活動

「生きる力」を養うための自信や意欲を植えつけるには「体験」が必要です。さまざまな体験がエネルギーとなって、将来、人間性豊かな自己が確立できるのです。そのためには、学校だけでなく家庭や地域社会全体がお互いに手を携えて、それぞれの立場から支援することが必要です。社会や家庭のあり方が変わっていく中で、子どもたちには、意図的・計画的に、自然体験、生活体験、社会体験ができる場を提供していくことが求められているのです。

毎週土・日曜日が休みになったことをきっかけに、地域は子どもたちにもさまざまな活動の機会や場を提供し、年代の異なる大人が積極的にか



子どもたちが初めて参加した清掃活動  
(西今町4区自治会)

## 大人が関心を持つきっかけに

西今町4区自治会 会長 保科 勇さん



子どものふれあい小旅行」と銘打って、奈良公園周辺や奈良国立博物館などで、歴史や文化を学びました。

西今町4区では、子どもと大人がともに参加できる行事として、奈良県への小旅行と、広場の清掃を実施しました。西今町4区は、約2200世帯の自治会です。高齢化が進んで子どものいない世帯が増えていて、子どもの数は約50人です。子どもたちには子どもの行事がありますが、今まで大人と子どもがいっしょになって地域活動をするということはありませんでした。

4月になって、「自然・人・文化を活かした体験塾事業」のことを聞きましたが、既に今年度の事業計画や予算が決まった後で、改めて新しいことを企画することができませんでした。そのため、既に自治会活動として実施が決まった行事に、子どもたちの参加を求めることにしました。

奈良への小旅行では、「大人と子ども



芹川で楽しく魚つかみ  
(下後三条町自治会)

トは遅かったのですが、2000近い自治会が子どもたちとともに活動を実施しました。

## 下後三条町の取り組み

下後三条町自治会では、地域の特色を生かした「自然体験事業」(8月17日)と「ウォークラリー」(11月16日)を実施しました。

「自然体験事業」は、子ども会が企画・運営の主体になってキャンプをしました。自治会や団体の協力で、芹川での魚つかみや水生生物観察、肝試しを兼ねた町内夜回り、空き地のキャンプなど多彩な2日間を過ごしました。参加した子どもたちは「野外で友達と一晩テントの中で過ごしたことが、一番楽しかった。ふだん経験できないことを、小学校最後の夏に経験でき、とてもよい思い出になりました。(城東小6年)」といった感想を書いています。

また、11月のウォークラリーは、子どもも大人も合わせて200人以上が参加しました。紅葉したけやき道を楽しみながら歩いたり、

## 紙上 談話室 11

# 地域の子どもは 地域で育てましょう

彦根市長 中島 一

私たちの周囲には、四季折々にさまざまな風景が展開する自然があります。そこには、花あり、虫あり、鳥の姿や鳴き声を見聞することができま。このような環境に私たちは季節の訪れを知り、感じ、美しさを求めてきました。

自然は、私たちと共に生き、共に育まれ、私たちの人間形成に大きく寄与し、また文化の創造に大きな役割を果たしてきたのです。

地域には、自然や人、文化といったさまざまな生活体験の場が豊富にあり、それを維持しておられる多くの団体があります。ところが、残念ながら、往々にしてこうした情報が子どもたちに届かず、結果的に優れた舞台装置を活用し切れないという状況があったかもしれません。

皆さんもご承知のとおり、昨年の4月から、完全学校週5日制が実施されています。学校休業日が増えることで生まれる「ゆとり」を、自然体験、社会体験などの活動にあてて子どもたちの豊かな人間性や「生きる力」の育成に生かそうという趣旨です。

完全学校週5日制実施を契機に、地域で子どもたちにさまざまな活動の機会や場を提供し、年代の異なる大人が積極的に子どもにかかわることで「地域の子どもは地域で育てる」機運をさらに高めていただきたいと思います。



「自然・人・文化を活かした体験塾事業」の手続き

自治会など地域の各団体が、子どもとともに活動する事業を年2回以上実施したとき、そのうち2回の事業にかかった経費を、事業実施後に補助するものです。

補助対象となる経費は、報償費、消耗品費、印刷製本費、使用料及び賃借料、原材料費、保険料です。食糧費は補助されませんのでご注意ください。

ただし、補助額の上限は、一つの事業につき、4,000円+(100円×自治会に所属する世帯の数)です。

詳しくは、**画**教育委員会生涯学習課 ☎24-7971、FAX23-9190までお問い合わせください。

自治会など数多くの積極的活用をお待ちしています。



模擬店を手伝う子どもたち (大沢自治会)

「応援合戦で優勝しよう」という呼びかけに、子どもが指導したわけでもなく、自分たちなりに考えてくれたのです。自治会の役員とも息が合って、終わるころにはそれぞれが充実感を感じているようでした。

また、学区運動会の応援合戦でも、大人と子どもが協力して取り組みました。

「応援合戦で優勝しよう」という呼びかけに、子どもが指導したわけでもなく、自分たちなりに考えてくれたのです。自治会の役員とも息が合って、終わるころにはそれぞれが充実感を感じているようでした。

また、学区運動会の応援合戦でも、大人と子どもが協力して取り組みました。

大沢自治会(平田町)では、納涼祭や文化祭、学区運動会など既存の事業の運営に子どもたちが参加しました(このページ下段参照)。

事業が終わって、「大人と子どもの距離が近づいた」と実感されたのは、実際に子どもたちとかわわってくださった大沢自治会の北川司郎さんです。

「子どもたちが集まってもらうことと自体が大変でしたが、動き出してみると、子どもたちが大人の役員と協力して懸命に汗をかいている姿を見て感動したという声がかつてきたり、お互いが気軽に話しかけている姿を見たり。運動会の応援では、子どもたちの波長と合って、全体が盛り上がり、大人も子どもも一体感が深まりました。こうした機会を通して

て、「近ごろの子どもは…」という意識を変えた大人も多かったのではないのでしょうか。

自治会は実にさまざまな人たちの集合体ですから、役員の間でも世代による考え方に違いがあります。お互いに自分とは違った世代の『良さ』や『つきあいきれない部分』を発見し、勉強になるものです。そこに、小・中・高校生が入ってくると、世代間における、子どもに対する見方、考え方の違いも分かってきます。それがまた、各世代にとっての新しい発見につながります。この事業は、子どものためだけではなく、大人たちに向けての教育事業でもあるように感じます。

今後、子どもたちの「生きる力」の支えとして地域が一つになり、さらに多くの事業を実施していただきますようお願いいたします。



大沢自治会会長 前田 稔さん

ともに汗をかき、ともに楽しみたい

平田町の大沢自治会は、約900世帯の大きな自治会です。子どもも約160人ほどいます。学校が週5日制になったことで、地域としても子どもたちのために何かしなければ、という思いがありました。

納涼祭や文化祭には、模擬店の運営に高学年の児童10人ほどがかわわってくれました。焼き鳥や焼きそば、フランクフルトを調理してお客さんに売るのは、子どもたちは、最初はぎこちない様子でしたが、時間がたつと、「いらっしゃいませ。」「ありがとうございます。」と大きな声を出していました。大人が指導したわけでもなく、自分たちなりに考えてくれたのです。自治会の役員とも息が合って、終わるころにはそれぞれが充実感を感じているようでした。

また、学区運動会の応援合戦でも、大人と子どもが協力して取り組みました。

「応援合戦で優勝しよう」という呼びかけに、子どもが指導したわけでもなく、自分たちなりに考えてくれたのです。自治会の役員とも息が合って、終わるころにはそれぞれが充実感を感じているようでした。

また、学区運動会の応援合戦でも、大人と子どもが協力して取り組みました。

平田町大沢の取り組み

西今町4区自治会では、地域の清掃活動に取り組みました(2ページ下段参照)。7月28日、早朝から子どもたちと自治会の人たちが広場に集まりました。慣れない竹ぼうきや熊手を使って枯れ枝や落ち葉を集めたり、草むしりをしたりして、子どもたちは地域の皆さんといっしょにいい汗をかくことができました。豊かな触れ合い体験の一日でした。

小泉町の取り組み

小泉友情子ども会では、昨年12月15日に「まちの名人さんと遊ぼう」というテーマで、地域の老人会の協力を得て、子どもたちと高齢者が触れ合う事業を実施しました(このページ下段参照)。

続いて2月15日には「陶芸教室」をしました。子どもたちは慣れない手つきで粘土をこね、思い思いの形に作っていきます。「どんなふうに仕上がるのかなあ」「壊れずにちゃんと焼き上がるかなあ、ちよっと心配」という声もありました。

地域の大人と子どもたちがともに楽しみ、交流し合うことで、「地域の子どもは地域で育む」という機運が高まっています。

西今町4区の取り組み

「陶芸教室」では、市内で湖東焼きの復興に努力している陶芸家を招き、約60人の子どもたちが陶芸体験に挑戦しました。板のように延ばした粘土を空き缶に巻き付けて形を作り、家から持ってきた王冠や貝がらなどで思い思いの模様をつけました(右の写真)。できた作品は陶芸家の先生に持ち帰ってもらい、窯で焼いてもらいます。

参加した前川勝宣さん(城南小6年)、坂口和久さん(同6年)、渡辺博輝さん(同5年)に話を聞きました。「ろうそく立てを作りました。うまくできたか



▲へらを使って模様をつけました

◀(左から)前川さん、坂口さん、渡辺さん

どうか心配です。」「粘土にさわっていると、感触が気持ちよかったです。」「作っては壊して、何度でもやり直しができるから楽しかった。」

紹介します  
小泉町  
友情子ども会  
の取り組み

まちの名人さんと遊ぼう  
「いっしょに遊んで楽しかったよ」

「まちの名人さんと遊ぼう」では、約100人の子どもたちが、老人会の皆さんとさまざまな体験の中で交流しました。子どもたちは、茶道体験、ドーナツ焼き体験、カラム、将棋



(左から)北沢さん、小川慶介さん、小川瑞貴さん▶

老人会の皆さんが、親切に教えてくれました▼

「今度あったら、まだ体験していないいどんぐりのおもちやづくりや、お手玉づくりを試してみたいです。」

参加した北沢隼乃さん(城南小4年)、小川慶介さん(同3年)に感想を聞きました。「ドーナツ焼きは、いろんな形のドーナツができて楽しかった。生地を焼くとすごくふくらんで、びっくりしました。」「カラムでは、最初は老人会の方が緊張して怖い顔をしてたけど、話しかけると笑って優しく話してくれました。」

参加した北沢隼乃さん(城南小4年)、小川慶介さん(同3年)に感想を聞きました。「ドーナツ焼きは、いろんな形のドーナツができて楽しかった。生地を焼くとすごくふくらんで、びっくりしました。」「カラムでは、最初は老人会の方が緊張して怖い顔をしてたけど、話しかけると笑って優しく話してくれました。」

